

一隻鞋

新井高子 譯者・黃淑燕＋黃瑄元

紅色的罌粟花，盛開的
海濱
一隻皮鞋，被打上岸來
還綁在鞋上的，鞋帶

罌粟花柔柔的彎下腰
將花瓣上的朝露，滴落
輕輕地，舒了口氣
用力甩落之後
才要睜開的
眼皮前面
一隻滿是污泥的鞋

古井般深邃的眼中
恐怕
映照不出什麼景色
記憶也
全然濕透
只能拍拍她吧
罌粟花，伸出她的葉子
伸向胸膛般的鞋面

——浪也打不碎呢
沖不走哪
已磨平的鞋跟和
皺紋

吸引過來
將人們散逸掉了的關注
吸到海邊
罌粟花，探頭看
愈顯清澈透亮的
古井底
一朵，小魚背鱗般的，火

——無法澆熄的呀
「存在」內面深處，樸實又微弱的光，
因為海也是
一隻巨大的眼睛

片方の靴

紅いひなげしが咲いていました
浜辺に、
片方だけ、皮靴が打ち上げられておりました
縛ったままの靴ひもでした

花びらのあさつゆを
ひなげしが 身をしならして垂らしたら
息づきます、かすかに、
精いっぱい振りこぼしたら
あけようとする、
目ぶたを
泥靴が、

古井戸のように深い目に、
おそらく
景色は映っていない
記憶さえ
ぐっしょり濡れて、
ひなげしは さすってみるほかありません
葉を伸ばし
胸のような靴の甲を、

——砕くことはできないよ、波も
流せない
すりへった踵と
皺が、

たぐり寄せるのです、
はぐれたひとの眼ざしを
浜辺まで、
ひなげしが覗きこめば
いつそう透きとおりに、
井戸の底に
小魚の背びれのような、火が、

——消せないさ
存在のおくの、正直なほそい光は
海もまた、
大きな瞳だから、

